

10月19日は シルバーの日

いつもご愛顧をいただき
感謝を申し上げます

10月の第3土曜日を「シルバーの日」と決定し、全国一斉にシルバー人材センターの啓発活動を行うことになりました。

シルバー人材センターは、
こんな仕事ができます。
ぜひ、ご用命ください。

あなたの知識
技術・経験を
シルバー人材センターで
生かしませんか。

技能・技術

- 庭木の剪定
- 冬園い
- 障子・ふすま張り
- 網戸張り
- ガラス入れ替え
- 大工軽作業
- 左官軽作業
- 塗装軽作業
- 刃物研ぎ
- 溶接軽作業



運転

- マイクロバス運転

講師

- カルチャー講座講師

室内軽作業

- 室内清掃
- 荷造り
- 運搬軽作業
- 工場軽作業

屋外軽作業

- 屋外清掃
- 除草作業
- 樹木消毒
- 烟の草取り
- 軽農作業

サービス

- 留守番
- 家事手伝い
- 買い物
- 動物飼育（旅行時）

事務・経理

- 一般事務
- 各種調査
- はがき宛名書き
- 賞状書き
- チラシ配布

管理

- 公共施設管理
- 民間施設管理
- 受付事務
- 施設清掃
- 駐車場管理

会員募集

- 働くことを通じて、健康保持と生きがいの充実を図りませんか。
- ◆会員 概ね60歳以上で、働く意欲のある方
 - ◆手続き シルバー人材センターの所定様式
 - ◆会費 年1,000円
 - ◆仕事 お客様から発注のあった仕事を、会員の希望職種に応じてシルバー人材センターから連絡。支部ごとで行う作業もあります。
 - ◆配分金 働いた仕事量に応じて支払います。
 - ◆保険 就業時間中にケガ等の事故があった場合、団体障害保険による補償が受けられます。

財団法人 横越町シルバー人材センター

横越町川根町2丁目20番1号
横越勤労者総合福祉センター（サンウイング横越内）
025-385-5211 国025-385-5212

横越町シルバー人材センターも地域社会に広くシルバー事業を周知するために、各支部ごとにボランティア事業を実施します。



宮嶋ギンさん（小杉1丁目）
は、明治37年（1904年）1月8日生まれで、現在99歳。あと3ヶ月で百歳を迎えます。

今年度めでたく百歳を迎える宮嶋ギンさんと土田ミセさんは、9月9日、それぞれの自宅において、内閣総理大臣と新潟県知事から長寿の祝い状が伝達されました。

めでたく百歳
内閣総理大臣・県知事からお祝い

宮嶋さんは現在、新潟市内の介護老人保健施設「大江山園」で療養を続けていたため、ご家族が祝い状を受け取りました。

足腰が弱くなっているため、車椅子で園内を移動していますが、食事は自分で取り、会話がしっかりできるほどお元気な様子で、園主催の花見などにも参加することがあるそうです。

土田ミセさん（東町1丁目）
は、明治37年（1904年）2月20日生まれで、現在99歳。あと4ヶ月半で百歳を迎えます。

土田さんは、現在自宅でご家族と一緒に暮らしており、毎朝7時に起床、仏壇のお供え物の

取り替えを日課としており、日中は洗濯や草取りをしたり、散歩に出かけては近所のお年寄りたちと世間話やお茶を楽しんだりしています。夜9時頃に就寝し、毎日時間通りの健康な生活を送っています。

また、伝達された祝い状の文書をご自分で一字一字反復したり、小学校時代の先生の名前をすべて覚えているという元気いっぱいの姿も見せてくれました。

9月15日は町内6地区の会場、13日には横雲の里で、敬老会が開催されました。今年の町内の対象者は、昭和4年12月31日以前に生まれた方1,160名です（横雲の里の入所者を含む）。

横越会場の横越小学校では、340名の該当者のうち約180名が出席。浅見町長から「皆

さんのおかげで横越町が発展してきました。横越町の大きな財

力が、このお年寄りたちの長寿を祝う言葉が寄せられ、町や社会福祉協議会など

から座布団などの記念品が贈られました。

これに対して、出席者を代表して本間仁作さんは「盛大な敬老会を催していただき、ありがとうございます」とございます。明るく楽しく

多くの行事に参加し、地域発展のため、これまでの知識と経験を活かしていきたい」と感謝の言葉を述べました。

その後、婦人会など有志による踊りや仮装を楽しんだり、おいしい料理に舌鼓を打つたり、また、昔の話に花を咲かせながら

お祝いの言葉を述べる本間仁作さん

から座布団などの記念品が贈られました。

これに対して、出席者を代表して本間仁作さんは「盛大な敬老会を催していただき、ありがとうございます」とございます。明るく楽しく

多くの行事に参加し、地域発展のため、これまでの知識と経験を活かしていきたい」と感謝の言葉を述べました。

その後、婦人会など有志による踊りや仮装を楽しんだり、おい

しい料理に舌鼓を打つたり、また、昔の話に花を咲かせながら

お祝いの言葉を述べ